

平成25年3月18日

保護者 様

尼崎市立浜田小学校

校長 黒田 千秋

平成24年度 学力・生活実態調査の概況について

本市では、平成16年度から、学力・生活実態調査を実施しており、今年度も6年生を対象に、この調査を実施しました。また、今年度まで全国学力学習状況調査が全学校対象ではなく、一部の学校となり、本校は対象ではなかったため実施しておりません。

1 各教科の概要（全国平均得点率との比較）

各教科の得点率を見ると・・・

○国語では、全国平均得点率をやや下回っています。

○社会では、全国平均得点率をやや下回っています。

○算数では、全国平均得点率をやや下回っています。

○理科では、全国平均得点率をやや下回っています。

2 各教科の観点別・領域別の状況（全国平均との比較）

【国語】 観点別では、「話す・聞く」、「書く」、「読む」「言語事項」とも全国平均より少し低い結果です。領域別では、「話し手の意図を考えて聞くこと」については、ほぼ全国平均と同レベルです。

【社会】 観点別では、「社会的な思考・判断」、「観察・資料活用」、「知識・理解」の3観点とも全国平均より少し低い結果です。小領域別では、「これからの食料生産と食生活」については、ほぼ全国平均と同レベルです。

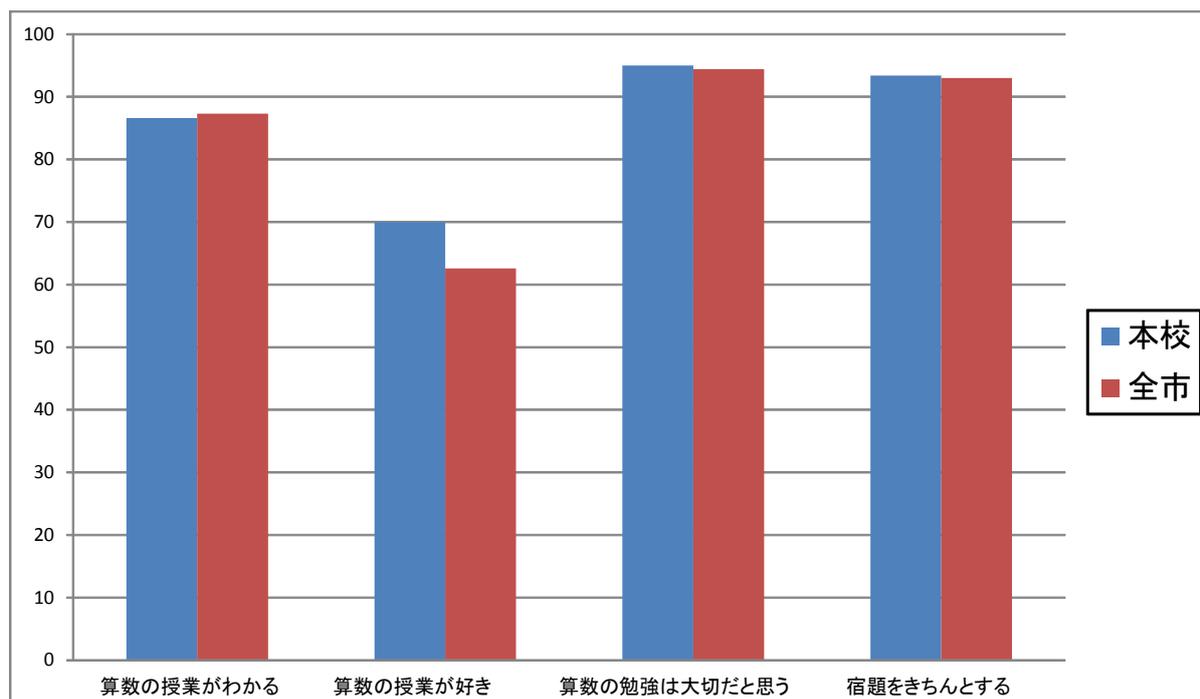
【算数】 観点別では、「数学的な考え方」、「表現・処理」、「知識・理解」の3観点とも全国平均より少し低い結果です。小領域別では、「単位量あたり、測定値の平均」については、ほぼ全国平均と同レベルです。

【理科】 観点別では、「科学的な思考」、「観察・実験」、「知識・理解」の3観点とも全国平均より少し低い結果です。小領域別では、「天気の変化」については、ほぼ全国平均と同レベルです。

3 生活実態調査について

生活実態調査は、児童が学校や家庭でのようすについて、アンケート項目に答えた割合（％）です。学習関係についての意識では、全体的にみると、「算数が分かる」という割合は全市と同レベルですが、「算数が好き」という割合が全市を7.4ポイント上回っています。高学年になり、算数の内容が難しくなり苦手意識が出てくるが、「算数が大切」だとしっかり認識していることがわかります。

－「子どもの意識や生活」の全市との比較－



また、高学年から中学校へとスムーズに接続するために、兵庫型教科担任制を取り、教員の専門性を活かした授業を実施しています。算数の少人数学習などを通して、一人ひとりの苦手意識を取り除いて自信を持たせ、意欲的に取り組んでいくようにしていきたいと考えています。

家庭生活との関連では、「朝、自分で起きる」、「朝食を食べる」など生活習慣が学力と関係があると言われてしています。

今後とも、学校と家庭と地域でしっかり連携して、児童の学力を高め、健全に育てていくため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

4 学力向上に向けての学校の取り組み

(1) 支援体制を充実する

今年度の学力・生活実態調査の結果から見えてきた本校児童の優れた点をさらに伸ばすとともに、支援の必要な児童には適切な支援を行い、学力の定着を図ってまいります。高学年には、新学習システムの教員を配置し、算数の少人数指導や理科や社会などで教科担任制をとるなど、指導方法の工夫や充実を図り、分かる授業の実現に努めてまいります。

(2) 学力補充の機会を確保する

本年度は毎週水曜日（低学年）・木曜日（中学年）を放課後学習の日とし、放課後学習指導員を配置して家庭学習の支援を行ってきました。放課後学習には100人以上の児童が登録しており、家庭学習の定着に一定以上の成果を上げています。来年度も引き続き実施していきたいと考えています。